

現行の建築物環境計画書における評価項目及び評価対象(非住宅用途建物)

分野	評価項目	評価対象	備考(任意評価項目等)	
エネルギーの使用の合理化	【01】建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減	PAL*低減率		
	【02】再生可能エネルギーの直接利用	自然換気システム、昼光利用設備、地中温度等の利用、開口部の確保等		
	【03】再生可能エネルギーの変換利用	太陽光発電、太陽熱、地中熱、バイオマス利用等の設備設置状況		
	【04】空気調和の熱源側設備	ERR		
	【05】空気調和の二次側設備			
	【06】機械換気設備			
	【07】照明設備			
	【08】給湯設備			
	【09】昇降機			
	【11】エネルギー利用効率化設備			
	【13】地域冷暖房等	活用の有無、供給を受ける熱の効率等	延床面積5,000㎡以下に限り任意評価項目	
	【14】最適運用のための計量及びエネルギー管理システム	計量設備の設置の程度、BEMSの導入等	延床面積5,000㎡以下に限り任意評価項目	
	【15】最適運用のための運転調整と性能の把握	建物全体及び空調・換気設備等のエネルギー消費量の予測の有無、熱源機器の効率算定等	延床面積5,000㎡以下に限り任意評価項目	
	資源の適正利用	【16】再生骨材等利用	利用の有無	任意評価項目
		【17】混合セメント等利用	利用の有無	
【18】リサイクル鋼材利用		利用の有無	RC造の建物は適用外	
【19】その他のエコマテリアルの使用		利用の有無(内装材にF☆☆☆☆のものを使用する等、環境負荷低減に寄与する材料使用の有無)	【16】～【18】に記載したものは除く。任意評価項目。	
【20】断熱材用発泡剤		発泡剤のオゾン層破壊係数(ODP)、地球温暖化係数(GWP)		
【21】空気調和設備用冷媒		オゾン層破壊物質の使用の有無(使用割合が冷媒の半分以上か否か)	任意評価項目	
【22】維持管理、更新、改修、用途変更等の自由度の確保		維持管理等への容易性、対応性の確保		
【23】躯体の劣化対策		水セメント比、設計かぶり厚さ等	S造の建物は適用外	
【24】短寿命建築物の建設資材の再使用対策等		構造材(基礎部分コンクリート除く)、内装材、外装材の再使用又は再生利用の可能性	土地の利用権に期間制限があり、長寿命化への対応不可の建物にのみ適用	
【25】雑用水利用		雑用水利用又は雨水利用の有無	任意評価項目	
自然環境の保全	【26】雨水浸透	敷地内で一定程度の雨水浸透の見込みの有無	任意評価項目	
	【27】緑の量の確保	敷地面積に対する、地上部及び建築物上の総緑化面積の割合		
	【28】緑の質の確保及び生態系への配慮	樹木による緑化面積、建築物上の緑化面積、既存樹木の面積総緑化面積に対する高木面積の割合等		
	【29】動植物の生息・生育環境への配慮	—	任意記載項目	
	【30】連続した緑の形成	—	任意記載項目	
	【31】樹木・芝・草花等の維持管理への配慮	—	任意記載項目	
ヒート現象の緩和	【32】建築設備からの人工排熱対策	人工排熱の顕熱量、全熱量	任意評価項目	
	【33】敷地と建築物の被覆対策	緑地、水面、保水性被覆材、高反射率被覆材による対策面積の敷地面積に対する割合		
	【34】風環境への配慮	夏の主風向(南風)に直交する最大敷地幅に対する見付幅比、最大高さに対する夏の主風向に直交する最大空地幅比	任意評価項目	

現行の建築物環境計画書における評価項目及び評価対象(住宅用途建物)

分野	評価項目	評価対象	備考(任意評価項目等)
使用エネルギーの合理化	【01】建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減	品確法の断熱等性能等級	品確法の評価受けない時、 U_A 又は η_A 値により評価
	【02】再生可能エネルギーの直接利用	昼光利用、パッシブソーラーシステム利用、自然通風の利用	
	【03】再生可能エネルギーの変換利用	太陽光発電、太陽熱、地中熱、バイオマス利用等の設備設置状況	
	【04】設備システムの省エネルギー	給湯、床暖房、空調のエネルギー消費効率等(各システムの得点の合計で評価)	
資源の適正利用	【05】再生骨材等利用	利用の有無	任意評価項目
	【06】混合セメント等利用	利用の有無	
	【07】リサイクル鋼材利用	利用の有無	R C造の建物は適用外
	【08】その他のエコマテリアルの使用	利用の有無(内装材にF☆☆☆☆のものを使用する等、環境負荷低減に寄与する材料使用の有無)	【05】～【07】に記載したものは除く。任意評価項目。
	【09】断熱材用発泡剤	発泡剤のオゾン層破壊係数(ODP)、地球温暖化係数(GWP)	
	【10】空気調和設備用冷媒	—	任意記載項目(冷媒の種類)段階評価はなし。
	【11】維持管理、更新、改修、用途変更等の自由度の確保	維持管理等への容易性、対応性の確保(品確法の維持管理対策等級)	
	【12】躯体の劣化対策	水セメント比、品確法の劣化対策等級	S造の建物は適用外
	【13】雑用水利用	雑用水利用又は雨水利用の有無	任意評価項目
自然環境の保全	【14】雨水浸透	敷地内で一定程度の雨水浸透の見込みの有無	任意評価項目
	【15】緑の量の確保	敷地面積に対する、地上部及び建築物上の総緑化面積の割合	
	【16】緑の質の確保及び生態系への配慮	樹木による緑化面積、建築物上の緑化面積、既存樹木の面積総緑化面積に対する高木面積の割合等	
	【17】動植物の生息・生育環境への配慮	—	任意記載項目
	【18】連続した緑の形成	—	任意記載項目
	【19】樹木・芝・草花等の維持管理への配慮	—	任意記載項目
ヒートアイランド現象の緩和	【20】敷地と建築物の被覆対策	緑地、水面、保水性被覆材、高反射率被覆材による対策面積の敷地面積に対する割合	
	【21】風環境への配慮	夏の主風向(南風)に直交する最大敷地幅に対する見付幅比、最大高さに対する夏の主風向に直交する最大空地幅比	任意評価項目